

昭和52年1月1日発行

# J.P.C

Japan Perouseian Center  
**KOMAKI**

No.1



㈱コマキ楽器社長 小牧正明

平素は格別の御引立を頂き、有難く御礼申し上げます。この度全国パーカッションフアンとの交流の場として日本で初めての、JPC友の会を発足いたしました所、最速八百有余人の方々が第一会員としての御入会の御申込みを頂き、さらに多くの打楽器の先生方や演奏家の方々より、身に余る御声援と御指導、御後援を賜わり有難く御礼申し上げます。あらためて今後の運営の責任の重大さを痛感致す次第でございます。発足しましたからには、パーカッション愛好者の交流の場、又知識技能向上の場として皆様の御期待に充分こたえられる会にして行きたいと存じます。

そして真に価値ある会と認められる様な企画を今後どしどし打ち出して行く所存でございます。最近になって、日本に於けるパーカッションの演奏活動もやっと活動期に入った感じで、パーカッションを主体とした音楽は、バンドにオーケストラに、マーチングにアンサンブルにロックにと、全ての分野で中心的な活躍を致しております。しかし外国の例を見るまでもなく、またこれらの分野での今後のパーカッションの活躍の前途を考えますと、より多くのプレーヤーと、より高度のテクニクと、より優れたフィーリングが要求される時代がもう目前まで来ていると申しても過言ではないと存じます。

この様な時に、このJPCという小さな会が皆様方に何かお役に立つことが出来ればと存じます。まだまだ会が出来たというばかりではございますが、これからこの会を皆様のお知恵をお借りして入会なさった方が十分に満足頂ける様な会にする積りでございます。どうぞ宜しく御指導御引立下さいませ。様御願い申し上げます。

## 打楽器を知った喜び

東京芸術大学助教授 有賀誠門

私の夢は新聞記者になる事であった。ところが、父の夢は自分に出来なかつた音楽を、息子にやらせる事であった。私は小学校に入学するや、ヴァイオリンとピアノをやらされ、音楽をやらざる得なかつた。高校二年の夏ベートーヴェンの「第九」の四楽章を聞く機会があつた。あのティンパニーのロールにすっかり魅せられたのが打楽器をやるきっかけであつた。(当時、ティンパニーと言う名前すら知らなかつた。)目標が決まると一生懸命である。そして芸大入学、学生コンクール一位、NHK交響団とチャンスをつかんだ。

その頃、打楽器音楽に興味を持ち始め、自ら、打楽器アンサンブルのグループを結成し演奏会、独奏曲等を放送した。だが自分自身もつと技術を伸ばしたく思い始めていた。ある時、ポストン交響楽団の演奏を聞き、音楽と打楽器の素晴らしさに感動した。それは今までの外来オーケストラと全く異なつていたのである。私は早速アルバイトでお金をため、アメリカに渡り、奏法に一つの啓示を受け帰国した。そしてN響、その他の演奏会で試みた。そして得た事は、ティンパニストとは、巨大なピラミッドのコーナーストーンと同じで、オーケストラ全体を把握しその音楽をよく知つていなくてはならない、と言う事だつた。マタチツチ、サヴァリッシュ、スイトナー、と言つた音楽家のもとで演奏した事により私には一つの音楽観が芽ばえ始めた。それは西洋音楽を自分のものにするには、音とその発声に対する知識、発想を考え、陰陽の運動性を理解することによつて和洋の音楽を問わず、様々な音楽を得ることが出来るのである。私は何人かの外来演奏家と演奏して来た。その中で、シュツットガルト室内合奏用と演奏した時は、上手下手の問題ではなく何が違い、それが何であるかを確信した。フィリップ・ジョーンズ金管合奏団の時も同じだつた。基本は全てに通じているのである。私にはようやく、音、リズム、音楽に対し自分の一つの感情が出来上りつつある様に思う。

## マリンバと私

武蔵野音楽大学講師 高橋美智子

JPC発足おめでとうございます。この度日本パーカッションセンターとして大きくスタートされた事を、心より御祝い申し上げます。

音……心のこもつた一つの音、それはその人の知性、教養、性格までも現わしてしまふ。その音の連なりによつて生れる音楽：私達に限りない憧れ、希望と勇氣、そして太陽が登りかけた時の一瞬のさわやかさまでも与えてくれます。私が魅せられた音、それはマリンバの音色です。あの甘く円やかな響き、その反面リズムミカルで鋭く男性的な響き、そして無限な未知の可能性を秘めた音色……そんな音色と共にいつしか年月が過ぎて行きました。

私とマリンバとの出会い……それは二才の時、父がプレゼントしてくれた卓上木琴でした。戦争時代であつたため、これが唯一の大切な玩具でもありました。両親が忙がしかつたため自然に木琴と遊ぶ時間が多くなつて行つたのを覚えて来ます。父には「マリンバをやるために生れて来たんだよ。」と言つて育てられ、長い時間練習を休んでも、決して無理やりにやらされた事はありませんでした。

そんな時父は「モッキンちゃんかネ、お姉ちゃん今頃ちつともひいてくれないで淋しい」と言つて泣いていたよ。」と言ひ、子供心に「かわいそうだからひいてあげよう。」と同情したものでした。私は朝のマリンバの音が好きです。太陽を受けて眩しいまで輝くパイプ、そして順序良く並ぶ鍵盤。しかし演奏会等でスポットライトを浴びた時、木の面が拡大して見え、妙になまめかしく感じ、まるでマリンバが生きているかの様に思われます。私に広がる大きな夢……それは、どこの家にもマリンバがあり、家族一緒に楽しい大合奏が始まり、その音の中から楽しそうに笑い声が聞こえてくる。いつでも誰からでも愛される、楽器であつてほしい。それが私の夢なのかもしれない。



## 音楽大学紹介(1)

# 東京芸術大学の巻



所、東京都台東区上野公園内12-8  
電話 03-828-6111 (代)

昭和24年5月、教育制度の改革によって東京美術学校および東京音楽学校を包括し、これを母体として、新たな性格をもって4年制の美術および音楽の2部からなる大学として創立された。

音楽学部は、明治12年10月文部省内に音楽取調掛を設け、明治23年2月現在地に移転、授業を開始した。現在は作曲科、声乐科、器楽科(ピアノ、オルガン、弦楽器、管楽器、打楽器)、指揮科、楽理科、邦楽科などがあり、芸術を目指す人にとっては、憧れの的となっている。年間行事として、オーケストラ、吹奏楽、邦楽、オペラ等の定期演奏会や学内演奏、演奏旅行、などがあり、音楽文化向上に貢献している。また、教官と学生相互間の交流を深める目的で遠足を行ったり、芸術祭など数多くの行事がある。全国で唯一の国立音楽機関のため、毎年3月に行なわれる入学試験は、かなりの倍率となり、受験者にとっては狭き門となっている。しかし入学後は、著名な講師、教授によりレッスンが開始され、高度な技術が取得できる。現在、打楽器科には学部、大学院、別科、委託、があり、21人の学生が在席している。

助教授に有賀誠門先生、講師に高橋美智子、岡田知之の両先生、芸大オーケストラには塚田靖先生を迎え、レッスンに、アンサンブルにと楽しいながらもきびしい授業が行なわれている。また所有打楽器も多く、コンサートマリンバ6台、プロモデルティンパニー5組等々の備品は全国でも唯一であると思われる。このような施設、校風の中で学生達は毎日技術習得に励み、卒業時には一流のプレーヤーとして、指導者として巣立って行く。現代の若者の感覚で悟る彼等は、伝統の重さに流されることもなく、一人の若人として巣立って行くような気がしてならない。(写真は楽器の手入れをする打楽器科の学生) (山田記)

## 教則本と曲集

冬も深まると吹奏楽界も新旧交代の季節となる様です。そこで打楽器奏者のために、わりと手に入りやすい教則本、曲集を紹介します。(価格は略します)

### (1)打楽器全般

(共) ●スクールバンドのための打楽器教本

(網代景介著)

(全) ●打楽器教則本 (今村征男、著 塚田靖、編)

(ド) ●楽しい打楽器入門 (猪瀬雅治著)

(音) ●吹奏楽講座・3 打楽器とマーチング(音友編)

### (2)小太鼓中心

(共) ●小太鼓100曲集 (網代景介、岡田知之共著)

(音) ●打楽器20レッスン (網代景介著)

(L) ●Collection Drum Solos (Ludwig 著)

(L) ●N.A.R.D. ( " )

(CH) ●Modern School for Snare Drum(Goldenberg著)

(S) ●Stick Control (George.L.Stone著)

(C) ●The solo Snare Drummer (Vic Firth 著)

### (3)ティンパニー中心

(音) ●ティンパニー教本 (網代景介、岡田知之、共著)

(L) ●Timpani Instructor (Ludwig 著)

(B) ●Modern Method for Timpani (Goodman著)

(C) ●Solo Timpanist (Vic Firth著)

(V) ●Etuden fur Timpani (Hochrainer著)

### (4)マリンバ、パイプ中心

(協) ●マリンバ教本 (宮沢音楽研究所 編)

(共) ●マリンバ教則本 (朝吹英一著)

(共) ●マリンバ名曲30選 (朝吹英一著)

(CH) ●Modern School for Xylophone, Marimba, Vibraphone (Goldenberg著)

### (5)シンバル、トライアングル、カスターネット等中心

(M) ●Technicales and Exercises for Playing "Triangl, Tambourine, and Castagnettes." (Paul Trice 著)

(H) ●The Art of playing The Cymbals (San Denov著)

### (6)マーチング・バンド中心

(東) ●バレード・バンドの編成と指導 (全日本学校バンド連盟編)

(ヤ) ●トランベツト鼓隊曲集1~3

(ヤ) ●トランベツト鼓隊ポピュラー曲集 (ヤマハ音楽振興会 編)

(全) ●金管バンドとマーチングのすべて (東京マーチング・バンド研究会編)

### (7)ジャズドラム・ラテン楽器中心

(全) ●ジャズドラム入門 (鈴木敏夫著)

(日) ●ジャズからロックまで猪俣猛のドラム教室 (猪俣猛著)

(ド) ●ジャズドラム教室 (猪瀬雅治著)

(ド) ●ラテン打楽器奏法 (鈴木健 著)

(東) ●ラテンリズム入門 (見砂直照著)

(注) カッコ内は出版社の略字です。 (共) 共同音楽出版社 (全) 全音出版社 (C) Call Fisher社 (B) Belwing-Mills社  
(協) 協楽社 (音) 音楽の友社 (V) Verlag社 (M) Music for Percussion社  
(ド) ドレミ出版社 (東) 東亜音楽出版社 (H) Henry Adler社 (L) Ludwig社  
(ヤ) ヤマハ音楽振興会(日) 日音楽譜社 (CH) Chappell社 (S) Stone and Son社

## 貴方の情熱を打楽器セールスにささげてみませんか。

コマキ楽器ではファイトある社員募集中です。

履歴書をお送り下さい(新卒可)。

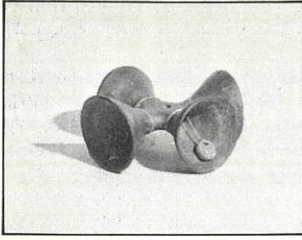


# 打楽器

## あれやこれや

国立音楽大学講師 岡田知之

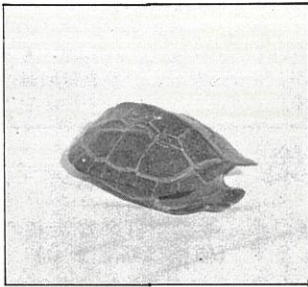
世の中にある全ての物体は、叩く、振る、こすることによって音を出すことができる。そこで、これらの物体を音楽的に利用すると物体は打楽器という名に変わり、楽器の仲間入りをする。自然のものも、他の目的で作られたものも、音の出るものは全て楽器になり得るのである。世界各地には遠い昔から現代に至るまで、物体を工夫して作られた様々な型の打楽器が存在し民族打楽器として伝わっている。また、色々な打物として我々の生活に密着している。そこで今回は世界の打楽器からみれば極く一部だが、私が集めた中から数点紹介させていただく。それらの中には、直接現地で入手したものや、古道具店、装飾品店で見つけたものも含まれている。



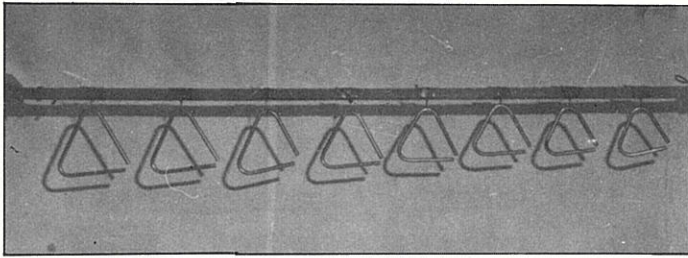
↑クレイベル  
陶器のベルで、四つの朝顔状の中に小石をぶらさげ中央にあいた穴に細い棒を通し、廻わしながら鳴すようになっている。  
南米産



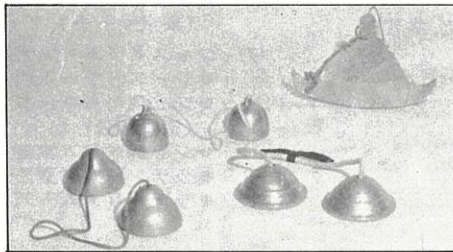
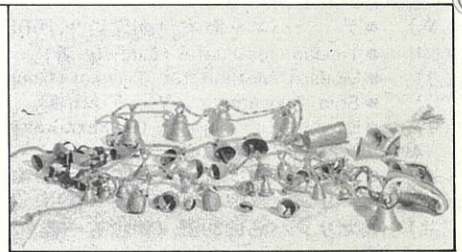
←亀の甲のラトル  
昔から自然の物体を打楽器にしている例の一つで、南アメリカの古い民族楽器にみられる。この写真は、拙宅にいたカメが冬眠に失敗したため、今は楽器として役に立ってもらっている。木鉦やウッドブロックと異なった音色を有している。



音階トライアングル↓  
南米で入手したもので、小型ではあるが一オクターブの音階になっている。(半音なし)



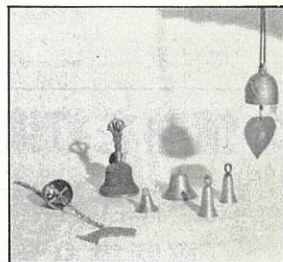
↑象の鈴  
爪を立てたような型。大小さまざまで、鈴の周囲の模様も美しい。  
パキスタンの鈴↓  
インドのパキスタンには幾種類もの鈴があり、そのうちの数は装飾品店で見かけることが出来る。



カウベル↓  
スイスのものが世界的に有名であるが、世界の各国にはいろいろな型のカウベルがある。日本のカウベル、牛の彫刻がほどこざれているインドネシ



↑タイの鑿(キン)  
するどい音の出るものでキンと呼ばれている。  
↑KYEZE (右上)  
ビルマやベトナムにある一枚の鉄板の鐘で、とても長い余韻を有している。



→タイやビルマの風鈴  
バンコックにある宮殿の軒先に、吊ってあり風が吹くとさわやかな音が聞こえる。  
アのもの、インドのもの、そしてクロマティック音階になっているものもある。





(写真は岡田先生と名珍打楽器類)

モロッコの太鼓、アメリカインディアン  
の太鼓、アフリカの太鼓、中国の槌太鼓、イン  
の太鼓(タブラ、バーヤ)スコットランドの太鼓、  
中国の柄付太鼓、日本のうちわ太鼓、韓国の太鼓、  
中国の太鼓、日本のつづみ、……一口に太鼓とい  
っても国によって型、音色、奏法等みんな違  
う。また木で作られた木鐘、木魚や、ガラガラ  
と音の出るもの、鈴なども国によって全  
て型が異なり、世界中には限りない打楽器  
類があることだろう。

それに、新しく発明されている打楽器もた  
くさんあり、これらのものなるべく多く研究  
すべく尚一層の努力をするつもりである。

そして、これらの楽器を使った打楽器曲が、  
一つでも多く生れること切望してやまない。

# ホームレッスンはいいけん

## 訪問先…安倍圭子先生

渋谷駅からバスで10分、とある駅で下車すると、そこは静かな住宅街、その一角に安倍先生のお宅がある。家の前まで来るとマリンバの強烈な音が耳に入って来た。「御免下さい。」……しばらくすると「ハイ」と軽い返事が返って来る。中に通されるとマリンバが2台、パイプ、ピアノ、本棚には譜面がいっぱい……。やがてレッスンが始まった。今回は横浜の田辺由紀さん。R.コルサコフの「態ばちは飛ぶ」で軽く手ならしたあと、サン・サーンスの「白鳥」、グレアーの「フラッパレート」へと入って行く。「もっと歌って」「リズムに乗って」と細かい注意が飛ぶ中に曲が仕上って行く。「さあ今度は由紀さんがアレンジしてよ。その曲をやりましょう。」前回からの宿題で「赤い河の谷間」を4マレットにアレンジして来たようだった。一度通した後、コード進行等について注意があり、由紀さんもうなづきながら譜面を追う。もうすでに一時間はたったろう。やがてレッスンが終ると、由紀さんを囲んで話しかけが始まった。彼女は、マリンバを3才から始め今は11才、小学校6年生である。由紀さんは「安倍先生はやさしくて、とても親切です。」~~~~「私は将来マリンバの曲を作ったり、アレンジしたりする事が夢です。」と言えば、「将来作曲

をやりたいと言っているの、今の彼女に芽ばえている彼女自身の音楽を育ててあげたい。」と安倍先生はやさしくはげます。私はあたたかい師弟を目の前に見て、自分の事のようについ微笑みを浮かべた。由紀さんが帰られた後、私は安倍先生と話す機会を得た。

マレットを置いた後はレッスン中の厳しさはなく、ごく普通の「おかあちゃん」を思い出させるものだった。私はそんなやさしさと親しみを感じながら、家を後にした。  
(山田記)



# J.P.Cで語り合おう!!

J.P.C.では貴方の意見を待っています  
只今 会員募集中です



## 「小太鼓のかまえ方と基本奏法」

どんな楽器を演奏する時でも共通する事と思いますが、「不必要な力はいれない」と言う事です。バチを持つと全身に力が入り、腕や肘が堅くなる人がよくありますが、これではスムーズな動きが作れません。常にこの事は頭に入れておいて下さい。「自然な姿勢」「自然な動き」が最も早く上達する、ポイントです。

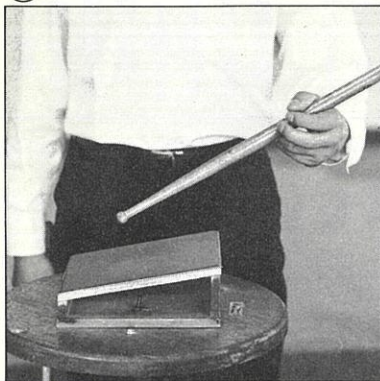
誌上クリニック

# 打楽器の奏法

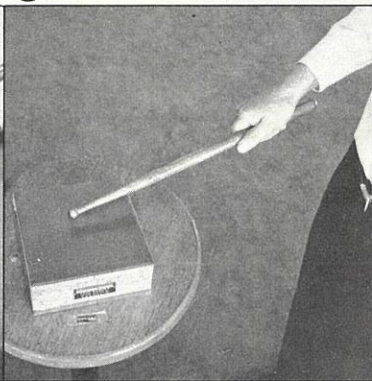
小太鼓の巻 その1

塚田 靖

①



②



### (1)バチの持ち方

左手(写真①参照)

手のひらの中にピンポン玉が入る位に軽く手を丸めて下さい。その時、力が入らない様に十分注意して下さい。写真でもわかりませんが、親指と人差指の先が同じ所に来るか親指の位置が前の方(バチ先)に来ている方が良いでしょう。

右手(写真②参照)

人差指の第二関節の所と、親指の腹ではさむ様に持ちます。(写真をよく見て下さい)次にバチ先が腕と同じ方向で一直線になる様に注意します。図Iの様にはならず、図IIのようになることが大切です。

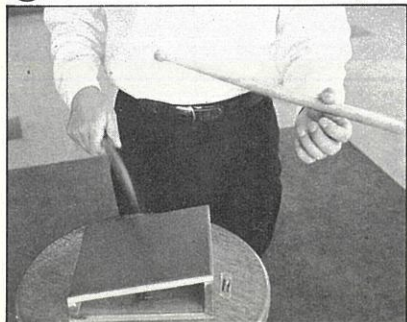
③



④



⑤

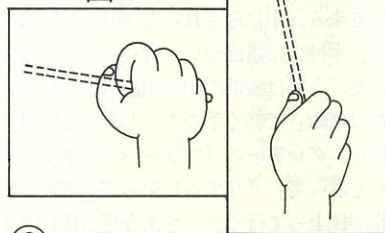


### (2) かまえ方(写真③④⑤⑥参照)

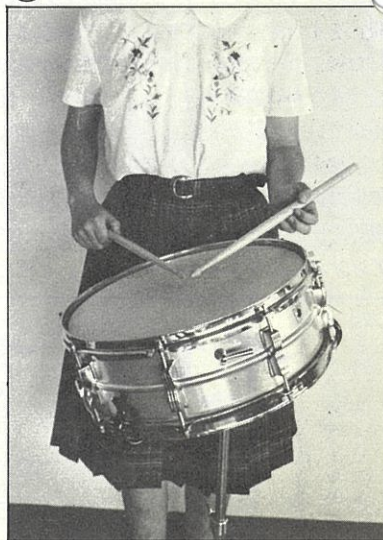
まず写真を見て下さい。いつも無理のない姿勢が大切です。かまえ方が出来たら「ポン」と打って下さい。軽く、ハズミを利用して自然に打つ事です。

図 II

図 I



⑥





# こんなことがありました 国立音楽大学打楽器アンサンブル

## 第7回定期演奏会



私達国立音大打楽器アンサンブルは、岡田知之先生の指導のもとに、網代景介、佐藤英彦先生、そして今は亡き、小森宗太郎先生のアドバイスをを受け、1970年にスタートしました。演奏会も今回で第7回を数え、これまでに多くの委嘱作品や、初演を行なって来ました。私達は曲が手もとに届くと、仏、独、英等の各国の訳により曲の構成を知り、楽器を研究します。(それは当然ですが。)

そのため、どの曲も演奏するまでにたいへん長い時間がかかります。以前、J・ケージのサードコンストラクションを演奏した時は、ゴミ箱の中から空カンを探し出したり、フライパンを店いっばいに広げ、たたきながら買い求めたりもしました。また材木屋で空胴の木を探し、音を造りました。そんな苦勞がありました。今は、その事が私達にとって無類の楽しみにもなっております。

(渡部記)



あなたの家族やグループで、NHK日曜家族スタジオの番組に出場してみませんか。  
お申し込みはJPC事務局まで

まず写真の様に左右のバチを持ちます。この持ち方は非常に大切に、これがしっかりしていませんと、練習に色々と不都合な事が出来て来ますから、しっかり勉強して下さい。

さて、左右とも持てたら、かまえ方をよく見て下さい。(最初の練習はほとんど練習台を使って練習して行きます)。注意する事は打面が腰の高さに来る様にし、自然に肘を曲げ打つ様にする事です。持ち方、かまえ方が出来たら練習に入ります。

譜例1から始めます。

(注意する事項)

- ◎早さ、強さは自分の最もやりやすいのにして下さい。
- ◎左右のリズムが正しく出来ていますか。
- ◎左右の強さは同じですか。
- ◎腕や肩に力が入っていませんか。
- ◎持ち方、かまえ方がおかしくありませんか。

次に、譜例2をやってみましょう。16分音符が出て来ましたが、左右が確実に打てる様に、細かい注意をしながらやりましょう。

③~⑫まで、いろいろ練習して下さい。

(R、Lに注意して下さい)。

(学芸大、芸大、武蔵野音大講師)

### 譜例

R = 右手  
L = 左手

## 第3回 パーカッション・フェア開催決まる!!

1977. 4. 22(金)~24(日)  
後楽園ホール展示場

乞ご期待!



あなたの街のコンサート

- 愛知県・東邦高校吹奏楽部発表演奏会
  - 日時 1月6日(木) 午後5時30分
  - 場所 名古屋市公会堂
- 藤村女子高校吹奏楽部第12回定期演奏会
  - 日時 1月8日(土) 午後3時
  - 場所 杉並公会堂
- 静岡県立伊東商業高校吹奏楽部第8回定期演奏会
  - 日時 1月8日(土) 午後4時
  - 場所 伊東市観光会館
- 千葉県長狭高校吹奏楽部第4回定期演奏会
  - 日時 1月9日(日) 午後1時
  - 場所 館山市民センターホール
- 和歌山市吹奏楽団「77ニューイヤール・コンサート」
  - 日時 1月9日(日) 午後2時
  - 場所 和歌山県民文化会館
- 国立岐阜工業高等専門学校吹奏楽部第10回定期演奏会
  - 日時 1月15日(土) 午後2時
  - 場所 岐阜市市民会館大ホール
- 清水市立商業高校吹奏楽部第20回定期演奏会
  - 日時 1月16日(日) 午後1時
  - 場所 清水市市民会館
- 埼玉県立幸手商業高校吹奏楽部第1回定期演奏会
  - 日時 1月16日(日) 午後2時
  - 場所 草加文化会館
- 福岡教育大学吹奏楽部第12回定期演奏会
  - 日時 1月22日(土) 午後6時
  - 場所 福岡市市民会館大ホール
- 第5回東中国地区高専合同演奏会
  - 日時 1月23日(日) 午後1時
  - 場所 島根県民会館
- トルペール・ウィンド・シンフォニー第3回定期演奏会
  - 日時 1月23日(日) 午後2時
  - 場所 茨城県民文化センター
- 沼津工業高校吹奏楽部創立20周年記念第18回定期演奏会
  - 日時 1月23日(日) 午後2時
  - 場所 沼津市公会堂
- 青英工業高等専門学校吹奏楽部第1回定期演奏会
  - 日時 1月26日(水) 午後6時30分
  - 場所 杉並公会堂
- 都立第五商業高校吹奏楽部第26回定期演奏会
  - 日時 1月29日(土) 午後6時
  - 場所 立川社会教育会館ホール

新年あけましておめでとございます。昨一年をふり返ってみますと、邦人演奏家、来日演奏家による数々のコンサートが行なわれました。また、新進作曲家による新しい分野の作品も発表され、意欲的なコンサートが数多く見つけられたようです。打楽器の分野を見てもリリカルな学校のアンサンブル・コンサート、マーチング・バンド・フェスティバルなど年々さかんになり、音色的にもいろいろな要求がなされるようになりまし。

また、地方の吹奏楽界における

J P C  
だより

打楽器の地位も確保され、打楽器アンサンブルも取り上げられてるようです。このJ・P・C友の会は、そんな打楽器奏者の愛好会で打楽器の魅力にとりつかれてる方ならどなたでも入会できます。吹奏楽界に限らず、マーチング・バンドや、マリimba奏者の方も大歓迎です。素晴らしい企画がたくさんあります。同封のハガキを至急お送り下さい。折返し会員証を発行致します。尚、年会費は、一、〇〇〇円です。



コマキ楽器・特殊打楽器入荷ご案内

マリンバ	マッサー	M-250	A-C	4オクターブ	キ	A=442	¥ 1,020,000
ビブラホン	"	M55	プロモデル	F-F	3オクターブ		¥ 870,000
ティンパニ	ラディック	880	2点セット				26,29
	プロフェッショナルモデル						¥ 752,000
	ラディック	1880	2点セット				26,29
	プロフェッショナルモデル	F.G.					¥ 479,000
コンサートバスドラム	ラディック	804P	16×32吋				¥ 152,000
"	"	806P	16×36吋				¥ 173,000
"	"	808P	18×40吋				¥ 200,000
マーチング・ティンブトム	"	571P	12×18, 16, 14,				
	ブルーヴィスタライト						¥ 218,000
"	"	572TP	12×20, 18, 16				¥ 251,000
"	"	574TP	12×22, 20, 18				¥ 281,000
グロッケン	マッサー	M645	2 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> オクターブ				
	G-C	ケース付					¥ 168,000
アンテック・シンバル	A	ジルジャン	C-C				
	各1枚セット	1オクターブ					¥ 130,000
ドラ	KMK	(中国製)	40吋				¥ 450,000
"	"	"	32吋				¥ 200,000
"	"	"	28吋				¥ 150,000



英国プレミアのティンパニが遂に日本に入荷致しました。よりシンフォニックな音質は今まで数多くご愛用頂いているラディックのティンパニとは一味違い、プロの方から高い評価を頂いております。

No.820 25, 28 ¥ 700,000  
No.824 22, 25, 28, 30 ¥ 1,400,000

編集後記

「JPCニュース」編集依頼を受け、いつしか二ヶ月が過ぎてしまいました。原稿依頼、取材、校正とおわれているうちに、もう12月。外には、こがらが吹き、雪の便りさえ聞かれます。そんな中で初の機関紙ができました。社長をはじめ諸先生方の御協力をいただき、ここに発行することができたことを喜んでおります。十分なものではありませんが、会員の皆さまが、初春を祝うお雑煮を喰べながら、またお屠蘇を飲みながらお読み頂く風景を想像しております。新年度はいよいよ充実した計画を練っております。ご期待下さい。尚、紙面のつごうで掲載できなかった方々に深くお詫び申し上げます。

昭和52年1月1日発行

発行所

J.P.C.事務局

〒111東京都台東区雷門1-16-4

(株式会社コマキ楽器内)

TEL 03-842-6041(代)

振替口座 9-153115

発行人 山田正俊